

応用編課題②【名前： 】

講評を元に、800文字であらすじを作り直しましょう

あらすじ（物語がどう始まり、どう展開し、どう終わるかを文章で書く）

恋人の楓をバイクの後ろにのせていた時、事故にあって楓を亡くした大学生の修一。自分だけが生き残り、修一は後悔をしながら大学生活もままならない状態になっていった。

ある日、修一の前に亡くなったはずの楓が姿を現す。けれど楓は全ての記憶を失い、かつ楓と強い関りのない人間には見えない幽体だった。

修一は楓を保護し、本人かどうかを確かめるために楓の妹の明美や両親に楓を会わせる。本当の楓ではあるが、妹の明美は信じられず距離をとる。

楓の友人で修一の幼馴染でもある洋子はすんなりと楓の存在を信じる。妹との距離を何とかしたいと言う相談を修一がすると、明美は付き合っている恋人ともめていて余裕がないのかもしれないと分かる。楓に明美の記憶はないが、他人のような気はしないと解決に協力する。

楓の協力の元、明美の問題は解決。すると楓は明美の記憶や家族の記憶、更には洋子の記憶を取り戻していく。だが修一の記憶だけはまだ戻らなかった。

事故で死なせた自分が原因だから思い出せないのかと、自分を追い詰めていく修一。明美が姉はそんなことを望んではいないと言う。楓の気持ちも考えず一人で突っ走ってしまったことを反省し、修一は楓に謝る。だが楓が姿を消してしまう。

後日、洋子は楓が自分を庇って亡くなったと修一に教えにくる。失踪する前日、楓は洋子に自分よりも修一という愛する人を助けたかったことを告白。けれどそれを思い出した時が別れの合図になると。

謝られた時に全てを思い出した楓だが、自分が消えるのを見られたくなくて姿をくらましていた。迷う修一に洋子は迎えにいけと背を押す。洋子もまた修一のことが好きだったが、何より楓を思う修一を応援したくなった。

修一は楓に感謝と、その分までしっかり生きると話す。楓は安心して成仏した。

修一は楓を安心させるために、再び大学へと通い始めるのだった。

講評

前回の講評を元にしっかり修正できています。キャラクターの心理についてもう少し深掘りしましょう。

・楓がこの世にとどまっているということは成仏していないこととなります（実際ラストで成仏しますが）。

それを良しと思わないキャラクターが1人もいないことに違和感を覚えました。

また、楓自身も死んでいるのに周りからここまで受け入れられていることに何も思わない

のでしょうか？

読者目線から見ると、彼らが箱庭にいるような感じがしました。

・上記の中で妹の明美のみ信じられないと、ある意味一般的な考えを持っていますが、それも原因は「恋人と揉めてそれどころではないから」というもの。姉が亡くなった→その姉が出て来たのに恋人がそこまで優先されるものでしょうか？ 揉めている内容にもよると思うので、この辺りの筋を立ててほしいです。

また、問題が解決したあとも明美はこのまま一般的な考え（楓がこの世にいることが信じられない）を持ち続けてもいいかと思います。そうでないと、誰も「楓が死んだ」という現実と直面できていないからです。

・または一般的な考えは洋子に持たせるのもアリです。前回の講評を参考に新キャラクターを出していただきましたが、洋子の役割が明美から派生したものとそう変わらず、修一の成長・変化にはあまり寄与しないためです。